

徐放性不快害虫用処理剤

プロコート®TP

本品は建築物の外壁に飛来し、室内に侵入してくるカメムシや、軒下等に巣を張り美観を損なうクモ等の不快害虫に対し優れた防除効果を示す薬剤です。

本品は処理面に有効成分を含んだ透明な被膜を形成します。被膜の中の有効成分が、長期間にわたり被膜表面に徐放され、効果が持続します。

【成分・分量】

ピレスロイド系化合物

【性 状】

乳白色の乳濁液

【特 徴】

① 不快害虫に対して有効

カメムシ・クモ・ユスリカ成虫・テントウムシ等の不快害虫に対して優れた防除効果を発揮します。

② 長時間、効力が持続

雨や直射日光の当たる条件下で、通常の乳剤タイプに比べて3倍以上の期間効力が持続します。

③ 高い安全性

人や動物といった温血動物に対して高い安全性を示すピレスロイド系の化合物を使用しています。

④ 水性タイプ

水を主成分とする水性乳濁液（エマルジョン）ですので、引火性がなく、消防法による規制を受けません。

【使用方法】

1. 本品を水で2～10倍に希釈して、1m²あたり50～100mLの割合で散布または塗布して下さい。
2. 窓枠等の液だれが気になる箇所には、本品を原液のまま塗布して下さい。
塗布後、窓を長期間締め切ったままにしておきますと、開きにくくなる場合がありますので、1～2日後に窓を左右に動かして下さい。

【使用上の注意】

使用前に必ず下記ならびに箱側面の注意をよく読んで正しくご使用ください。

1. 窓ガラス等の不必要な部分に本品が付着した場合は、出来るだけ広がらないように乾いた布等に吸収させて取り除いた後、濡れ雑巾等で拭き取ってください。
2. 万一、処理面が変色した場合は、中性洗剤で十分に洗浄し、布またはタワシ等でこすってください。

日数が経過し被膜が固結した場合には、お湯や蒸し雑巾などで被膜をふやかし、タワシやコテ等を用いて取り除いてください。

【特に注意すべき事項】

1. 処理面が白壁等の場合、濃い薬液で処理すると日光等により変色する恐れがありますので、水で5~10倍に希釈してからご使用ください。
2. 散布する前に処理面のホコリや汚れを除去してください。

【適用法規】

法律及び規制	プロコート®TPの情報
薬機法	該当しない
毒劇物取締法	該当しない
消防法	該当しない
PRTR法該当物質	該当しない
建築基準法 シックハウス規制対象物質	該当しない

【安全性及び環境影響情報】

- ・安全性（有効成分についての情報）

急性毒性 ラット経口：LD50 ♂510 ♀455 (mg/kg)

 ラット経皮：LD50 ♂♀>5000 (mg/kg)

- ・環境影響情報（有効成分についての情報）

魚毒性 ニジマス：LC50 0.0016mg/L (96hr)

【効 力】

プロコート®TPのオオチョウバエ成虫に対する効力試験結果

試験方法：接触法

各処理面にプロコート®TPの水希釈液を塗布し、室温（20～25℃）にて、1日
 または2ヵ月間保存した後、オオチョウバエを接触させ、時間経過に伴う
 致死率を調べた。

(単位 致死率%)

処理面		吸収面 (ベニヤ板)	非吸収面 (ガラス板)	
			×5倍	×10倍
希釈倍数		×2倍	×5倍	×10倍
塗布 1日後	30分	96.7	83.3	76.7
	60分	96.7	96.7	96.7
	90分	100	100	96.7
塗布 2ヵ月後	30分	88.2	83.3	80.0
	60分	100	100	100
	90分	100	100	100

- ・プロコート®TPは、オオチョウバエに対し、塗布2ヵ月後も殺虫効果を維持した。